RITSUMEIKAN

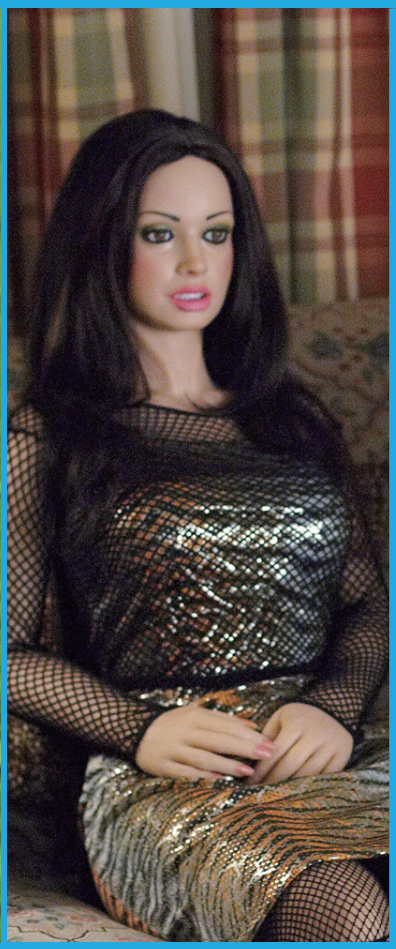
立命館大学人間科学研究所・立命館大学生存学研究センター主催

公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ５

ひとりだけど、ひとりじゃない。
—虚構というリアル—

5/15（土）
『空気人形』
2009/ 日本 /116 分 / アスミック・エース
監督：是枝裕和 / 出演：ペ・ドゥナ、ARATA、板尾創路
対談：是枝裕和 監督 × 中村正

6/19（土）
『リリイ・シュシュのすべて』
2001/ 日本 /146 分 / ロックウェルアイズ
監督：岩井俊二 / 出演：市原隼人、蒼井優、忍成修吾
対談：春日井敏之 氏 × 神谷雅子
（文学部・教授）



7/24（土）
『ラースと、その彼女』
2007/ アメリカ /106 分 / ショウゲート
監督：グレイグ・ギレスピー / 出演：ライアン・ゴズリング、エミリー・モーティマー
対談：村本邦子 氏 × 中村正
（応用人間科学研究科・教授）

8/28（土）
『トニ—滝谷』
2004/ 日本 /75 分 / 東京テアトル
監督：市川準 / 出演：イッセー尾形、宮沢りえ
対談：団士郎 氏 × 神谷雅子
（応用人間科学研究科・教授）

会場：立命館朱雀キャンパス 5F 大講義室（ホール）

参加費：￥800　立命館大学教職員・学生 / 京都シネマ会員￥500

時間：13：00 開場 13：30 開演（16：30 終了予定）

当日 13：00 よりチケットの販売を開始します（事前の受付及び整理券の配布はございません）

＊駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい。
＊満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください。

企画コーディネート：神谷雅子（京都シネマ代表、産業社会学部・教授）/ 中村正（応用人間科学研究科・教授）

「ひとりだけど、ひとりじゃない。―虚構というリアル―」の開催にあたって

この公開講座は、フィルムアートに表象された「関係性の様態」の解読をとおして現代社会の不安と希望を照らし出し、人間と社会の現在について幅広く考える機会にしたいと願って企画されています。これまで、現代家族の不安と再生をテーマにシリーズ１「家族の現在」を、シリーズ２は「『裁き』のそのあとで－加害といかに向き合うか」と題して学びを深め、シリーズ３は「親密だから見えないこと－『羅生門的現実』を生きる－」を、ままならない生の現場からの「子どもに見出される希望」と「子どもが生きるための希望」をテーマとしたシリーズ４「生きがたさのなかで－子どもと希望－」を開催しました。

上映後の対談や講義とあわせて、アートの持つ創造性・触感性・破壊性等を考えてきました。大学の研究所が実施するこの企画映画会は、映画を活用した人間学への洞察を深めることを目的として、結論のない対話を楽しむ「道楽」としての、学問の本来の意味の追求です。

さて、シリーズ５は「ひとりだけど、ひとりじゃない。－虚構というリアル－」です。その人らしく、その人にとっての重要な他者のあり方について、少し異なる視界から眺め、つながり方の多様さを考えます。リアルな日常の中の関係性の綻び＝傷を直視し、そこからの恢復の手がかりを得たいと思います。「あなたは誰？」と問いながら、「他者」という存在の意味を、その深まりと広がりへと解き放ちたいと考えます。

5 月 15 日 (土) 『空気人形』
2009/ 日本 /116 分 / アスミック・エース
監督：是枝裕和
出演：ペ・ドゥナ、ARATA、板尾創路

対談：是枝裕和 監督 × 中村正

古びたアパートで持ち主の秀雄と暮らす空気人形は、ある朝、本来は持ってはいけない「心」を持ってしまう。彼女は秀雄が仕事に出かけるといそいそと身支度を整え、一人で街へと歩き出す。メイド服を着て、おぼつかない足取りで街に出た彼女は、いろいろな人に出会っていく。ある日、レンタルビデオ店で働く純一と知り合い、そこでアルバイトをすることになる。ひそかに純一に思いを寄せる彼女だったが……。

6 月 19 日 (土) 『リリイ・シュシュのすべて』
2001/ 日本 /146 分 / ロックウェルアイズ
監督：岩井俊二
出演：市原隼人、蒼井優、忍成修吾

対談：春日井敏之 氏 × 神谷雅子

中学１年の雄一は同じ剣道部の星野や仲間たちと、偶然不良たちから奪いとった金で沖縄旅行したりと楽しくやっていた。が、夏休み明け、星野はクラスのワルを倒したことで豹変し、子分を従えて雄一をイジメ始める。2000 年 4 月インターネット・ノベルとしてスタート。一般の読者に紛れて監督の岩井俊二がハンドルネームを使いわけ物語を作りあげていった。日本初のデジタルビデオカメラ、２４プログレッシヴで撮影。

7 月 24 日 (土) 『ラースと、その彼女』
2007/ アメリカ /106 分 / ショウゲート
監督：グレイグ・ギレスビー
出演：ライアン・ゴズリング

対談：村本邦子 氏 × 中村正

アメリカ中西部の小さな町に暮らすラースは、優しくて純粋な青年で町の人気者だが、ずっと彼女がいないために兄のガス、義姉カリンらは心配していた。そんなある日、ラースが「彼女を紹介する」と兄夫婦のもとにやってくる。しかしラースが連れてきたのは、ビアンカと名づけられた等身大のリアルドールだった。兄夫婦を始め、街の人たちは驚きながらも、ラースを傷つけないようにビアンカを受け入れようとするが…。

8 月 28 日 (土) 『トニ―滝谷』
2004/ 日本 /75 分 / 東京テアトル
監督：市川準
出演：イッセー尾形、宮沢りえ

対談：団士郎 氏 × 神谷雅子

村上春樹原作の同名短編を、市川準監督が映画化。ジャズ・ミュージシャンの息子として生まれ、「トニー」という名を付けられた主人公がイラストレーターとなり、仕事先の編集部員、英子と結ばれる。幸せな結婚生活で唯一の問題は、英子が次々と新しい洋服を買うという依存症だった…。イッセー尾形がトニーを淡々と演じ、英子役の宮沢りえも、言いようのない焦燥感を絶妙に表現する。

・是枝裕和 (これえだひろかず) 監督…大学を卒業後、テレビマンユニオンに参加。95 年、初監督作品「幻の光」。04 年、「誰も知らない」がカンヌ映画祭で２作連続のコンペ部門正式出品を果たし、同作の主演俳優柳楽優弥が見事男優賞を獲得した。近作に「花よりもなほ」「歩いても歩いても」など。

・春日井敏之（かすがいとしゆき）氏…文学部教授。専攻は、臨床教育学・教育相談論。主な著作は、『思春期のゆらぎと不登校支援』（ミネルヴァ書房）、『希望としての教育』（三学出版）、『ピア・サポート実践ガイドブック』（ほんの森出版）『不登校支援ネットワーク』（かもがわ出版）など。

・中村正 (なかむらただし)…産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専攻は、臨床社会学・社会病理学。男性学。主な著作は、『家族のゆくえ』（人文書院）、『「男らしさ」からの自由』（かもがわ出版）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。

・村本邦子 (むらもとくにこ) 氏…産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専門は、臨床心理学・トラウマ心理学。女性学。最近は、ドラマセラピーに関心を寄せている。主な著作は、『しあわせ家族という嘘』（創元社）、『暴力被害と女性 - 理解、脱出、回復』（昭和堂）など。

・団士郎 (だんしろう) 氏…大学院応用人間科学研究科教授。専門は、家族療法。主な著作は、「不登校の解法―家族のシステムとは何か」（文藝春秋社）、「講座現代の教育・第七巻　ゆらぐ家族と地域」（岩波書店）、「非行と家族療法」（ミネルヴァ書房）。

・神谷雅子 (かみやまさこ)…産業社会学部教授。映画産業論などを講義。80 年代後半から「京都朝日シネマ」の運営に携わり 90 年同館支配人に。閉館後、04 年 12 月に新しいアート系映画館「京都シネマ」（四条烏丸下ル）を代表としてオープン。著書に『映画館ほど素敵な商売はない』（かもがわ出版）。

＊本企画は、グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点の研究成果として広く社会に発信するものです。

お問い合せ先：立命館大学人間科学研究所　事務局
〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1
TEL：075-465-8358　FAX：075-465-8245
E-mail：ningen@st.ritsumei.ac.jp
URL：http://www.ritsumeihuman.com/

主催：立命館大学人間科学研究所
立命館大学生存学研究センター
共催：京都シネマ
協賛：株式会社オリエントコーポレーション
協力：アスミック・エース、ショウゲート、東京テアトル、ロックウェルアイズ